國學院大學学術情報リポジトリ

都市祭りの経年的変化：戦後の地域社会の変容と神田祭五〇年の盛衰

メタデータ	言語: Japanese
	出版者:
	公開日: 2023-02-05
	キーワード (Ja):
	キーワード (En):
	作成者: 秋野, 淳一, Akino, Junichi
	メールアドレス:
	所属:
URL	https://doi.org/10.57529/00000114

都市祭りの経年的変化
—戦後の地域社会の変容と神田祭五〇年の盛衰—

秋野淳一

はじめに

平成二七（二〇一五）年、東京の神田祭は、神田神社（神田明神）が現在地（千代田区外神田）に鎮座してから四〇〇年という節目の年を迎え、奉祝大祭として行われた。それに先立つ二年前の平成二五年は、東日本大震災の影響によって四年振りの開催となったが氏子町会の神輿宮入に際して多くの観客と参加者を動員して行われた。この神田祭をはじめ、三社祭、祇園祭、天神祭など大都市部の伝統的な都市祭りが近年、多くの人たちを動員して盛んに行われている。しかしながら、戦後の都市祭りを対象とした先行研究では大都市部を対象とした研究が少なく、また同一の都市祭りを継続的に調査し、その経年的変化を追った研究がほとんどないという課題がある。ただし、神田祭は氏子町会全体を対象とした昭和四三（一九六八）年の薗田稔の調査[1]、平成四年の松平誠の調査[2]があり、平成二五年から四五年前と二一年前との実証的な比較が可能である。経年的変化を追うことができる数少ない事例といえる。

そこで、本稿では、この神田祭に焦点を当て、平成二五年の神田祭（一部、平成二七年の状況も含む）について、昭和四三年、平成四年の調査からの変化を踏まえ、その特徴を実態調査

のデータを基に解明する。この実態調査は、昭和四三年の薗田稔の調査項目をもとに、町会の世帯数、お札の頒布数、神酒所の有無、祭礼の象徴（神輿や山車の数など）、主な行事、役割動員（祭りの組織）、一般動員（祭りの担い手）、行事経済（寄付の金額など）、行事変化、祭りの評価、神社イメージについて、平成二五年の神田祭について対象となる町会ごとに把握したもの（資料篇参照）である。このうち、主な行事と一般動員の変化に注目しながら、戦後の地域社会の変容によって、町会の神田祭のどの要素が拡大し、どの要素が縮小したのかを解明し、神田祭の盛衰について考察する。そして、この神田祭の（平成二七年の一部事例を含むと）おおよそ五〇年の盛衰から現代日本人の伝統的な宗教に対する新しい意味や役割を浮き彫りにして社会変動と宗教の関係を考える一助としたい。

ただし、本稿は、神田神社の氏子一〇七町会[3]のうち平成二五年に神田神社への宮入を実施した神田と日本橋の氏子五二町会と二連合（錦連合・小川町連合）［大手・丸の内町会を除く全ての宮入実施町会］を対象として、平成二五年は宮入を実施しなかった岩井会と蛎殻町東部の二町会を参考事例として分析したものである。連合地区（神田神社の氏子町会のみ）ごとにみると、神田中央連合（以下、神田中央）：二町会と二連合、中神田十三ケ町連合（以下、中神田）：一三町会、外神田連合（以下、外神田）：一二町会、神田駅東地区連合（以下、神田駅東）：六町会、岩本町・東神田地区連合（以下、岩本町・東神田）：八町会、秋葉原東部地区連合（以下、秋葉原東部）：五町会、日本橋一～五地区連合（以下、日本橋）：八町会を対象とした。なお、紙幅の関係から町会名は略称とする（資料篇を除く）。

一、薗田稔・松平誠の分析

（一）薗田稔の分析

薗田稔は明治維新百年を迎えた昭和四三年の神田祭の調査において、神田神社の氏子町会を巡る神幸祭や町会の神酒所、神輿巡幸の把握など、宗教社会学的な調査を実施し、以下の三つの特徴を明らかにしている。

【特徴一】神幸祭、町内祭礼のいずれを問わず、御神霊のシンボルの移動が、巡回区域の宗教的浄化という象徴的効果を果たしていること。

【特徴二】各氏子町内の神輿や曳き太鼓などによる「練り」の行動には、自町内だけを練る「町内練り」、隣接町内と連合

して十数基がともに練り合う「地区練り（連合渡御）」、地区単位で数ヵ町の神輿が神社に練り込んで宮詣りをし、お祓いを受ける「連合宮入り」があり、多数の観衆を引きつけた上で成立する集団的興奮、あるいは日常性を突き破るべきオルギー状況を現出させることが期待されていること。

【特徴三】祭りに行なわれる諸行事をになう基礎集団の単位が、町内集団、すなわち町内会であること。

薗田はこうした三つの特徴を挙げた上で、昭和四三年の段階では、神田地域は「脱地域化」が起こりにくい社会的性格をもっているといえるかもしれないと指摘している。

（二）松平誠の分析

松平誠は、昭和四三年から二四年経過した平成四年の神田祭から薗田稔の調査項目のうち、神酒所の有無、祭礼の象徴、主な行事、役割動員（祭りの組織）、一般動員（祭りの担い手）、行事経済について、明らかにしている。

まず、松平は、昭和四三年の薗田の調査段階では神田地域は「脱地域化」が起こりにくい社会的性格であったが、一九八〇年代～一九九〇年にかけて人口流出や高層化などによって「脱地域化」が進んだことを指摘した。

次に、薗田が挙げた三つの特徴について、平成四年の調査から検討した。薗田の【特徴一】は、昭和四三年の段階では、神事の持つ氏子と神の連携が神の巡回という意味で解されていたが、平成四年の段階では儀礼の持つ本来の意味が既に理解されにくくなっていると指摘し、その根拠として、町会の祭礼行事において、神田神社の神霊を載せた鳳輦を迎え、次の町会へ送り、受け渡していく神幸祭「受渡し」の欠落や忘却、町会の神輿に御霊を入れる「御霊入れ」を行うが、御霊を返す「御霊返し」の欠落、神輿を神輿庫から出す「蔵出し」と神輿庫に戻す「蔵入れ」が対になっておらず、片方が欠落していることなどを挙げている。薗田の【特徴二】は、【特徴一】の変化によって、町内祭礼行事のなかでの伝統的な儀礼の保持という側面では徐々に衰退しつつあるばかりでなく、平成四年の段階では、神田祭＝神輿担ぎという短絡が生じ、連合渡御と町内練りが祭りの本体であるかのように意識されている場合が少なくないと指摘している。薗田の【特徴三】は、役割動員を形成する形に変化はなく、町内会は、依然として地域祭礼の実施機関としての役割を確実に果たしつつあると指摘している。ただし、一般動員に問題があり、男子居住集団による神輿担ぎが崩れていたことが窺えるとしている。そして、平成四年の一般動員の大き

な変化として松平は次の三つの特徴を挙げている。

【一】動員される人々のなかに、半数ないし三分の一の女性が登場してきたこと。

【二】かなりの部分を様々なネットワークで集めた町内会員外の人々で補っていること。

【三】一九七〇年代以来の新顔として御輿同好会のメムバーが加わったこと。

松平は特徴【一】に注目する形で、神田祭において町会の神輿を女みこしに変化させた須田町中部の神田祭の調査研究を地域社会の変容の視点から行っている。[4] また、特徴【三】に注目する形で、平成二一年の神田祭の調査を軸に、神田祭に参加する一部の町会の事例から神輿同好会の動員について論じた清水純の研究がある。[5] 清水は、神輿同好会が新顔ではなく、特定の町会に特定の神輿同好会が定着していることを明らかにしている。ただし、神田祭の全体を対象とした網羅的な調査研究には至っていない。また、松平が挙げる特徴【二】については、松平以後の変化を含めた詳細が明らかにされていない。松平の特徴の【一】のその後の変化についても不明である。

そこで、本稿では薗田の三つの特徴と松平の一般動員のその後について、平成二五年の神田祭から検討したい。

二、町会の世帯数と神酒所の設置にみる変化

（一）町会の世帯数

平成四年の松平の調査に世帯数の記載はないため、昭和四三年と平成二五年（一部、平成二七年を含む）について、比較可能な町会に限って地区ごとにみていきたい。

神田中央では、神保町一丁目は増加したが、猿楽町は昔からの住民は減少し、錦町二丁目・錦町三丁目は大幅に世帯数が減少した。中神田では、比較可能な八町会全てで世帯数は減少した。外神田では、ＪＲ秋葉原駅に近い、万世橋会、旅籠町、田代会、松富会で大幅に世帯数が減少した。反対に、宮本町や五軒町、末廣町などでは、世帯数は増加した。神田駅東では、比較可能な四町会全てで世帯数が減少した。実質的な居住者は少なく町会員は企業会員を含んで構成している。岩本町・東神田では、岩本町一丁目、松枝町、岩井会、平成二七年の豊島町、東神田町ではマンション住民を含むと世帯数は増加したが、町会活動に参加する町会員は減少傾向にある。秋葉原東部では、佐久二平河町と和泉町では世帯数は減少したが、佐久間町三丁目、東神田三丁目は増加し、佐久間町四丁目でも増加したこと

が窺える。東神田三丁目では、マンションの建設によって人口・世帯数は増加し、マンションも棟単位で町会に加入している。日本橋では、いずれの町会でも世帯数は増加した。マンションが建ち、新住民は大幅に増加したことが窺える。そのため、蛎一共和会ではマンションを除くと約二〇世帯になる現状がある。

（二）神酒所の設置数

各町会では神酒所を町内に設置して、ここを起点として神輿の巡幸などの祭礼行事を実施する。この神酒所の設置数について、昭和四三年、平成四年、平成二五年の順にみると、六〇→五八→六一と推移し、ほぼ同水準の設置率を維持している。地区連合ごとにみると、中神田、外神田、岩本町・東神田、日本橋では同水準の設置率を維持しているが、神田中央（一〇→一〇→七［町会五、連合二］）では減少した。神田駅東では、昭和四三～平成四年で減少（六→四）したが、平成四～二五年で増加（七［紺屋町北を含む］）した。ここには、北乗物町と紺屋町南による合同の神酒所の設置が含まれる。

三、主な行事の変化

神田祭の主な行事のうち、松平誠が薗田稔の調査との比較の根拠とした七つの行事について、昭和四三年、平成四年、平成二五年の順に挙げ比較検討する。

（一）蔵出し・蔵入れ

「蔵出し」は、なし→二九→四六、「蔵入れ」は、なし→三〇→四六といずれも増加した。平成四年は神田駅東と秋葉原東部で「蔵入れ」と「蔵出し」が対になっていない町会があったが、平成二五年は全て対になっていた。平成二五年では、「蔵出し」「蔵入れ」は神輿庫から神輿を出し入れするのみで特別な儀礼を伴うものではなく、「蔵出し」「蔵入れ」終了後に飲食や直会をする程度である。神田神社には氏子神輿庫があり、多くの町会の神輿が納められている。神田祭では、神輿を搬出入する町会が集中し、短い時間で区切って搬出入を行うため特別な儀礼を行う時間的・空間的な余裕がないという実態がある。

（二）神幸祭「受渡し」

神幸祭「受渡し」は、四（鳳輦供奉、鳳輦迎エ）→三四→五

五（把握分のみ、神田中央の二町会と二連合を含む）と増加し、全ての地区連合で増加した。ただし、これは各町会が単独で実施するというよりも、地区連合ごとに複数の町会が合同で「受渡し」をするため実施率が高い。つまり、町会の境から町会の境へ鳳輦を送る各町会単位の神幸祭「受渡し」から地区連合ごとの合同の「受渡し」へ変化した結果であるといえる。

（三）御霊入れ・御霊返し（御霊抜き）

「御霊入れ」は、三一→五九→五八（把握分のみ）、「御霊返し」は、五→一九→一八（把握分のみ）と推移し、「御霊入れ」「御霊返し」ともに、昭和四三～平成四年で増加し、平成四～二五年は大きな変化がない。また、平成二五年においても「御霊入れ」は行うが「御霊返し」を行わない町会が多いことがわかる。ただし、地区ごとにみると、岩本町・東神田では、「御霊返し」は一→二→五と増加し、秋葉原東部でも、平成二五年に宮入した五町会全てで「御霊入れ」と「御霊返し」を実施した。「御霊返し」は、神田中央、中神田、外神田、神田駅東では低い実施率であるが、岩本町・東神田と秋葉原東部では実施率が比較的高い。日本橋の橘町と東日本橋二丁目は宮入後、神田神社で「御霊返し」を行い、実施率を維持している。

（四）町内渡御・神輿宮入参拝

「町内渡御」（町会練り）は、四〇→五〇→五二（把握分のみ）と増加し、「神輿宮入参拝（連合渡御）」は、二三（連合練りを含む）→五四→五五（把握分のみ）と増加した。全ての地区で町内渡御、神輿宮入参拝（連合渡御）が増加傾向にあり、特に、神輿宮入参拝が拡大した。平成二七年には、岩本町・東神田の岩井会は大人神輿の町内渡御を復活し、日本橋の蛎殻町東部は神田神社への宮入を行った。

四、役割動員と一般動員の変化

（一）役割動員（祭りの組織）

松平誠は、平成四年の時点で町内会（町会）は依然として地域祭礼の実施機関としての役割を確実に果しつつあると指摘した。平成二五年では、対象となった全ての町会で祭典委員を置き、多くの町会で祭典委員会などの祭りの運営組織を設置した。町会長や町会役員が祭典委員や祭典委員長などに就き、青年部や婦人部などを動員し、町会が神田祭を実施する機関としての役割を担っている点に変化はない。ただし、神田中央の錦

連合と小川町連合が、連合で一つの祭典委員会、一人の祭典委員長を置く形に変化した。また、中神田の須田町中部では、女みこしの担ぎ手を一般募集するが、平成二五年からインターネットによる募集を開始した[6]。非町会員で町内に事務所を構える女みこし担ぎ手募集係（女性三人）がインターネットからの応募を含め、全ての参加者リストの管理を一括で行った。

（二）一般動員（祭りの担い手）

全体の傾向として、昭和四三～平成四年に参加者数（動員数）そのものが増加したことが窺える。平成二五年は日曜日に宮入を行う町会では、土曜日より日曜日の参加者数が多い傾向がある。また、昭和四三年は、青年・子どもを含めた町内の居住者や町内企業の従業員の参加者が多かったことが薗田の調査から窺えるが、平成四年になると、町会員外の参加者の割合が増加し、平成二五年も同じ傾向が続いている。ここでは、平成四年の調査から松平が指摘した神輿同好会、様々なネットワークで集めた町内会員外の人々を考える上で参考となる他町会や女性、町内企業の参加者に注目して検討したい。

［神輿同好会］

神輿同好会の参加は、平成四年は一五町会（神田祭全体では一九町会）であったが、平成二五年は四一町会（把握分のみ）に増加した。平成二五年では、神輿同好会が流動的に様々な町会の神田祭に参加するのではなく、「神輿同好会は昔からの付き合い。半纏合わせは毎回同じメンバーで四月に実施」（五軒町）、「神輿同好会とは何十年の付き合い」（佐久間町三丁目）というように、多くの町会で長い付き合いのある神輿同好会が特定の町会に定着している傾向が窺える。須田町二丁目では、町会公認の神輿同好会（金沢睦、日本橋貳通睦）がある。栄町では、「神輿同好会のメンバー一〇人程度は、蔭祭の「ふれ合い広場」など普段から町会の活動を手伝う」といい、町会と長い付き合いの中で信頼関係を築いた神輿同好会は神田祭以外の町会活動にも参加する例もみられた。須田町南部町会（町内五〇人【一六・七％】、同好会二五〇人【八三・三％】）や豊島町（同好会【八三・三％】）では町会の半纏ではなく、神輿同好会の半纏での参加を認めている。清水純は、平成二一年の神田祭の調査を軸に神輿同好会の動員について分析し、「大抵二十～三十年、時には四十年もの付き合いの続く神輿同好会が特定の町会に毎回担ぎに来る関係が成立していた[7]」ことを明らかにしているが、平成二五年も同じ状況であることがわかる。

［他町会の参加者］

他町会の参加者は、平成四年の調査からは窺えないが、昭和四三年の段階で「東松下町ナド依頼五〇人」（鍛冶三会）、子どもが「他町から六〇人参加」（北乗物町）とあり、当時から他町会の参加者の存在が窺える。平成二五年では、多町一丁目（亀戸天神の町会一五～一六人、本郷・桜木神社の氏子町会一〇人）、宮本町（亀有三丁目東町一〇〇人【大人神輿の参加者の四〇％】、亀住町会）、同朋町（茅場町一・二丁目二五人、新中野町会）、末廣町（亀住町七～八人）、五軒町（亀住町、松住町）、鍛冶町二丁目（紺屋町北、東松下町、富山町）、須田町二丁目（日本橋貳通睦）、東神田町（水海道・栄町仲睦青年会四三人、外神田松住町会八人、足立区前保木間青年部六人）、豊島町（中目黒の月光町・小山台など町会関連三団体）、佐久間町四丁目（北千住三丁目）、東神田三丁目（深川南・花川戸一丁目青年部・両国二丁目睦・湯島の春木町）、室町一丁目（日本橋貳通睦など）などで一定数の他町会の参加が確認できた。氏子外の他町会のみならず、同じ地区連合で氏子が異なる町会や同じ氏子同志で宮入を行わない町会の参加がみられた。宮本町では、大人神輿を借りた先の亀有三丁目東が参加した。須田町二丁目と室町一丁目では、赤坂日枝神社の氏子である日本橋貳通町会の日本橋貳通睦が参加した。日本橋貳通睦は、既述の通り、須田町二丁目公認の神輿同好会であり、山王祭に参加する日本橋貳通町会の睦会である。「外に出る時は神輿同好会、中では町会の青年部」という神輿同好会の一つの形が窺える。同朋町に参加した茅場町一・二丁目も赤坂日枝神社の氏子である。日本橋の本町一丁目と室町一丁目では、神田祭が蔭祭の時に山王祭の日本橋の町会（日本橋三丁目など）の神輿に参加し、山王祭が蔭祭の時に、日枝神社の日本橋の町会は室町一丁目の神田祭に参加するなど、神田祭と山王祭でお互いの町会の祭りに助っ人として参加する「相互乗り入れ」を行っている[8]。他の祭りとの「相互乗り入れ」のネットワークを通じ一定数の参加があることがわかる。

［女性の参加者］

平成二五年では、「女性の参加者が多い」とする町会が九町会あった。具体的な数値を回答した町会は、多町一丁目（八〇～一〇〇人［日曜の参加者の四〇％］）、多町二丁目（一割）、須田町中部（一六九人）、同朋町（約一五〇人［三七・五％］）、栄町（町外から三〇～四〇人、宮入時一〇人弱）、金沢会（三分の一）、元佐久町（約一〇人）、和泉町（約二〇人）、橘町（約二〇％）、浜町一丁目（二割）、浜三東部（約二〇人）であ

る。岩本町三丁目、東紺町では、町会の神輿を一部区間だけ女みこしにした。佐久二平河町では、宮入の際、神輿の前棒は全部女性になり、鍛冶三会では、金曜日の夜に子ども神輿を女みこしにして、町内渡御を行った。連合渡御や宮入を含む全区間を女みこしで渡御する須田町中部の「元祖女みこし」は、平成二年の松平誠の調査[9]と平成二五年の参加者を比較すると、参加者数は増加（一四八人→一六九人）した[10]。一方で、淡路町一丁目では、女性の参加者は少ない。以上の調査結果からは、松平誠が指摘するように、「動員される人々のなかに、半数ないし三分の一の女性」とは必ずしもいえないものの、女性の参加者が増加傾向にあることが窺える。町会の側では、女性の参加者の増加に一部区間を女みこしにするなど対応していることがわかる。

［町内企業の参加］

平成二五年の町内企業の参加は、美土代町（会社員四〇～五〇人）、司一（城南信用金庫一〇人）、多町一丁目（城南信用金庫神田支店約二〇人）、多町二丁目（会社員約五〇人）、鍛冶三会（三菱銀行三〇人）、須田町中部（西武信用金庫一三人）、須田町北部（りそな銀行三〇人、新日鉄興和不動産二〇人、ＪＲ東日本ビルディング、ＪＲステーションリテーリング、みずほ銀行二〇～三〇人）、鍛冶町一丁目（山梨中央銀行三〇人）、鍛冶町二丁目（徳力本店一〇人、神田通信機二〇～三〇人）、須田町二丁目（向井建設四〇～五〇人）、佐久二平河町（ＵＦＪ銀行八人・三協化成一三人・パセラ一人）、（山崎製パン三〇〇人、本間組二〇人、田島ルーフィング二〇人、貝印一〇人）、和泉町（ＹＫＫ一〇～一五人と凸版印刷一〇～一五人を含み企業四〇～五〇人）、室町一丁目（企業：宮入二二人、町内渡御一二一人）などでみられた。岩本町三丁目では、昭和四三年は八割が町内の店員であったが、平成四年は町内会員外が五九・六％、平成二五年は企業の参加者が七〇％を越えた。特に、山崎製パン社員三〇〇人の参加者に占める割合が高い。一〇〇〇人を超える会社員が参加する大手・丸の内町会の史蹟将門塚保存会大神輿に近い。「神田藪そば」などの老舗が立地する須田町北部では、町会の戦略として、三〇年前に神輿同好会を頼みにすることから脱却し、企業を巻き込んでいく方針に転換した。鍛冶町一丁目、鍛冶町二丁目、須田町二丁目、紺屋町南では、平日にしかいない企業の会社員を巻き込もうと金曜日の神輿巡幸を行っている。栄町では、地元企業の取り込みを図り、金曜日の夜に「ふれあい広場」を神酒所前で開いている。蔭祭の時も神田祭と同じ時期に「ふれ合い広場」を実施して企業会

員と親睦を図っている。金沢会では、金曜日の夜の神輿巡幸を一〇年前から始め、蔭祭の年は企業との懇親会を神田祭の時期に開いている。

町内に有力な企業がある町会では、祭りの担い手も企業に特化したり、祭りを通じて企業との関係を良好にしていこうとする町会の戦略が窺える。町会は、企業を取り込むために、金曜日の夜の祭り（神輿巡幸・懇親会）や蔭祭を実施していることがわかる。

五、行事経済・行事変化

（一）行事経済

平成二五年の町会の祭礼費は、昭和四三年と平成四年と同様に大多数の町会が寄付（奉納金）で行っていることに変化はない。寄付だけで不足する場合は、町会費（祭礼準備金）などで補足して、町会の祭礼行事を運営している。寄付は、前回の祭りの奉納金額を記した奉加帳を持って会員を戸別訪問したり、回覧を回して寄付を募るなどの方法で徴収している。寄付の金額は、平成四年のデータがないため、昭和四三年と平成二五年を比較すると、金額は上昇している。しかし、物価が異なるため、単純な比較はできない。中神田の須田町中部では、昭和四三年：四〇万円→平成二年：五一〇万四千円[11]→平成二五年：三五三万円[12]と推移している。平成二年から平成二五年にかけて大きく減少した。「奉納金は減少傾向」、「町内に銀行が多かった時代、奉納金は四二〇～四三〇万円になった。統廃合で移転後、その分が減少」といったように、多くの町会でピーク時より寄付が減少し、寄付集めに苦労していることがわかる。栄町では、「居住する三〇世帯からの寄付金が多い」としながらも、祭りの運営に際して無駄の排除を行い、分業化を進め、有効に祭礼費を使うように工夫をしている。

（二）行事変化

地区ごとにここ一〇～一五年の行事変化をみていくと、神田中央では、住民の減少に対応して、企業の参加を進め、錦町や小川町では「連合」という祭りの合同組織を作り、神輿の巡幸や宮入を持続している。小川町連合では、連合を組む四町会の核になる幸徳稲荷神社の存在が大きかったことが窺える。中神田では、大きな変化がないとする町会が四町会あるものの、町内の居住人口が減り、子どもの減少と高齢化が進み、マンション住民が増えても神田祭への参加は進まず、神輿同好会や外部

の参加者に頼らざるを得なくなった状況が見て取れる。そうした中で、一五年くらい前から土曜日の「八町会合わせ」（連合渡御）が始まり、鍛冶三会では平成一九年頃から金曜日の女みこしの巡幸を開始した。外神田では、住民減少や高齢化によって祭りの担い手の確保に苦労するようになった一方で、平成六年から、神田神社への宮入の後、秋葉原の中央通りに連合渡御する「おまつり広場」の開始、企業向けの金曜日の祭りや蔭祭の開始、宮本町では、他町会から大人神輿を借りて、平成二一年から宮入を開始した。また、蔭祭における子ども神輿の巡幸も平成二四年から開始した。神田駅東では、神田祭が盛んになっていることがわかる。紺屋町南では、平成一一年五月に手作りの神輿を作り、平成一三年に宮入を開始、平成一九年から北乗物町と合同の神田祭を行うように変化した。岩本町・東神田では、昔からの住民は減少する一方で、新たな祭りの場が生まれた。岩井会は、平成二五年に神田神社へ「桃太郎」山車を展示することによって、二〇年振りに神酒所を設営し、神輿を組んで神酒所に展示するなど、盛り上がりを見せた。大和町の神輿の宮入の際、神田神社拝殿前で岩井会の「桃太郎」山車を曳くパフォーマンスを行った。松枝町では、「羽衣」山車の子どもの参加者がマンション住民を巻き込み増加傾向にある。岩本町一丁目では、金曜日の午後に台車へ載せた神輿を門付し、町内企業に祭りの開始を知らせ、その夜に会社員向けの町内渡御を始めた。秋葉原東部では、大きな変化がないとする町会が二町会ある一方で、東神田三丁目では、平成一六年に神輿を新調し、佐久間町四丁目では、平成二五年に神輿の巡幸と宮入を復活するなど、拡大する傾向もみられた。ただし、佐久間町四丁目では、担い手の外部に占める割合は高く「ヨソ（外部）の力で神輿を出すのは町内の祭りではない」として、一時期、神輿の巡幸を止めていた時期もあった。日本橋では、祭りの拡大が窺える。蛎殻町東部では、平成一二年に神輿を新調し宮入を開始、参加者も増加した。蛎一共和会では、平成二一年から宮入を開始した。

六、祭りの評価

平成二五年の神田祭がどのような場になっているかをみると、類似例を含み「地域・町会（町会員）の結束や絆の確認、親睦や活性化の場」が三三町会、「伝統・ブランド」が一二町会、「町内・町会で最大のイベント・行事」が一〇町会であった。一方、「町会役員の負担が大きくて辛い面もある」、「役員

をやっている人は「また祭り」といった感覚」というように祭りの運営の厳しい現状を浮き彫りにする評価もあった。昭和四三年では、「祭リハ町ノ繁栄親睦ガ主目的デアル」と町内の親睦の場とする評価が一部である一方で、「幼イ頃祭リノ楽シイ気分ガ今デモ残ッテイル」、「祭リハ昔ノ伝統ヲ継グタメニ必要」、「氏神ノ祭リダカラ楽シム」、「オ祭リヲスルノハ先祖ヘノ義務」、「交通事故ガ心配」といった「祭りの評価」であった。昭和四三年に比べると、平成二五年は、「祭りをやるために町会がある」（和泉町）、「お祭りは町会の最後の拠り所」（岩本町一丁目）など「地域」や「町内」を強調した評価が増加し、伝統やブランド力を有し、町会のつながりを維持するための最大の行事として神田祭が位置付けられていることがわかる。

七、経年的変化からみえる平成二五年の神田祭

（一）薗田稔の【特徴一】神事・儀礼の意味のその後

薗田の【特徴一】は、平成二五年では平成四年と共通し、神事・儀礼の持つ本来の意味を理解しにくくなっているといえる。それは、「蔵出し」「蔵入れ」は神輿庫から神輿を出し入れするのみで特別な儀礼を伴うものではなく、神幸祭「受渡し」は実施率は増加したものの、町会単位から地区連合を単位とした合同の「受渡し」へ変化した。「御霊返し」の実施率には、人的要因（人手不足等）に伴い、町会の神輿巡幸の終了時間と神事を行う神職が来れるタイミングが一致するか否かにかかっていると考えられる。同様に、神輿巡幸の終了後、担ぎ手と一緒に神酒所前で「直会」を行う町会は限られている。町外から参加する担ぎ手は神輿巡幸が終わると、弁当を貰って早々に退散する。本来の「直会」の意味とは異なっている。また、金曜日の宵宮（前夜祭）は、町内の企業を祭りに巻き込むための場になっている。

（二）薗田稔の【特徴二】「練り」（神輿巡幸）のその後

薗田の【特徴二】は、松平が「町内祭礼行事のなかでの伝統的な儀礼の保持という側面では、徐々に衰退しつつあるばかりでなく、一九九二年の段階では、神田祭すなわち御輿担ぎという短絡が生じており、連合渡御と町内練りが祭りの本体であるかのように意識されている場合が少なくない[13]」と平成四年の調査から指摘したが、平成二五年も同様の特徴を持つ。ただし、町内渡御（町内練り）は、実施率は高いものの、居住者が減少する中、町内の見物人が少なく、門付の軒数は減少し、本来の

意味が変容している。町内渡御が観客がおらず寂しいため、土曜日の連合渡御を秋葉原東部や岩本町・東神田では開始した。つまり、神田祭＝神田神社への宮入や連合渡御といった「見せ場」という意味合いが強くなってきたといえる。

（三）薗田稔の【特徴三】町内会のその後

薗田の【特徴三】は、松平は、薗田との比較から「町内会は、依然として地域祭礼の実施機関としての役割を確実に果たしつつある」[14]としているが、平成二五年においても町会（町内会）が祭礼の実施機関であることに変化はない。ただし、町会とは違った個人やグループの活躍、町会が合同して祭礼を行うようになった事例もあり、「確実に果たしつつある」とは言い切りにくい現状もある。

（四）松平誠の一般動員のその後

松平の【一】～【三】の特徴について順番にみていきたい。【一】「動員される人々のなかに、半数ないし三分の一の女性が登場してきたこと」は、平成二五年では必ずしも三分の一にまでは及ばないものの女性の参加者は増加傾向にある。【二】「かなりの部分を様々なネットワークで集めた町内会員外の人々で補っていること」は、平成二五年では、様々なネットワークを通じた参加が拡大している。他町会や会社員、会員を介した友人・知人の参加もみられる。また、町会によって一般動員の仕方に特色がみられ、一般募集の女性の参加者に特化した須田町中部、神輿同好会の参加に特化した須田町南部や豊島町、企業参加に特化した岩本町三丁目、大手・丸の内町会、企業の参加を重視する須田町北部、栄町などがある。【三】「一九七〇年代以来の新顔として御輿同好会のメムバーが加わったこと」は、平成二五年では、清水純が指摘する通り、二〇年、三〇年と長い付き合いのある神輿同好会が特定の町会の神輿巡幸の担い手として定着している例も少なくない。新顔から町会との間に信頼関係を構築した馴染の神輿同好会へ移行したことが窺える。

おわりに

昭和四三年の薗田稔の調査からおおよそ五〇年が経過した平成二五年（及び平成二七年）の神田祭は、地域社会の祭礼の実施機関である町会の昔からの住民が減り、マンションの建設によって新住民は増えても、町会の神田祭を下支えする人たちは増加しにくい現状がある。にもかかわらず、祭りは衰退するど

ころか、かえって拡大し盛んになっているようにみえる。例えば、「御霊返し」といった祭儀の部分は、人的要因とタイミングによって選択され、選択できない場合は現状維持ないし縮小する傾向がある。その一方で、町内企業に見せ、取り込みを図る金曜日の祭りや蔭祭、連合渡御や宮入など、「見せる要素」のある祝祭の部分が拡大している。ここ一〇年以内に神田神社への宮入を開始した町会が複数存在し、秋葉原の中央通りで連合渡御を行う「おまつり広場」は平成六年に始まった。また、縮小していた町会の祭りが祭礼の象徴の誕生や復活などによって、祭りが盛んになり地域社会が再活性化する事例もみられた。須田町中部の「元祖女みこし」の誕生、紺屋町南の段ボール神輿の誕生、岩井会の「桃太郎」山車の展示に伴う神酒所の二〇年振りの設置、北乗物町と紺屋町南の合同の神酒所の設置など、社会的状況が厳しいにもかかわらず、祭りは活性化しているのである。つまり、地域社会の変容という社会変動に対して祭りが衰退していくのではなく、社会変動に対して可逆的に反応していることが神田祭のおおよそ五〇年の盛衰から浮き彫りになってきたのである。そして、祭りが社会変動に対して反芻する要因として、「祭りの評価」から窺えるように、町会にとって神田祭が最大の行事であるとともに、神田祭が地域社会の結集を維持するための「最後の拠り所」であるからではなかろうか。「祭りをやるために町会がある」というように、地域社会が大きく変容し、神田祭以外の町会活動が縮小傾向にある町会にとって、神田祭の果たす役割が増していることが窺える。そのことが社会変動に対して祭りが可逆的に反応する一つの原動力になっているのではなかろうか。社会変動と宗教の関係を考える上でも神田祭の経年的変化の分析は意義あるものと考える。今後、未調査の町会や平成二七年の神田祭全体を踏まえた上での網羅的な考察が課題である。

註

（1）薗田稔「祭と都市社会「天下祭」（神田祭・山王祭）調査報告（一）」『國學院大學日本文化研究所紀要』第二三輯、國學院大學日本文化研究所、昭和四四年。

（2）松平誠「都市祝祭伝統の持続と変容 - 神田祭による試論」『応用社会学研究』第三五号、立教大学社会学部研究室、平成五年。

（3）一般に、神田神社の氏子は一〇八町会といわれるが、「一〇七町会」の数は、『平成二五年神田祭』（神田神社、平成二五年）、『平成二七年神田祭』（神田神社、平成二五年）の「祭典委員芳名」に掲載された町会数を基にしている。

（4）松平誠「現代神田祭仄聞」『国立歴史民俗博物館研究報告』第三三輯、国立歴史民俗博物館、平成三年。

（5）清水純「神田祭―担ぎ手の動員をめぐる町会と神輿同好会の関係―」『日本民俗学』第二七一号、日本民俗学会、平成二四年。
（6）秋野淳一「「元祖女みこし」の変遷にみる地域社会の変容と神田祭」『國學院大學大学院紀要―文学研究科―』第四五輯、國學院大學大学院、平成二六年。
（7）前掲清水「神田祭―担ぎ手の動員をめぐる町会と神輿同好会の関係―」、二六頁。
（8）石井ゼミ神田祭蔭祭・調査班「神田祭・蔭祭　調査報告―平成26年度―」『神道研究集録』第二九輯、國學院大學大学院神道学・宗教学専攻院生会、平成二七年。
（9）前掲松平「現代神田祭仄聞」。
（10）前掲秋野「「元祖女みこし」の変遷にみる地域社会の変容と神田祭」。
（11）前掲松平「現代神田祭仄聞」。
（12）前掲秋野「「元祖女みこし」の変遷にみる地域社会の変容と神田祭」。
（13）前掲松平「都市祝祭伝統の持続と変容・神田祭による試論」五九頁。
（14）前掲松平「都市祝祭伝統の持続と変容・神田祭による試論」五九頁。

【付記】本稿は、「宗教と社会」学会第二三回学術大会（平成二七年六月二四日、於東京大学本郷キャンパス）の研究発表「都市祭りの経年的変化―戦後の地域社会の変容と神田祭の盛衰―」を基に大幅に加筆修正したものである。また、平成二四～二六年度・國學院大學大学院特定課題研究「地域社会の変容と都市祭り―神田祭を事例として」（研究代表：石井研士教授）の研究成果の一部である。

【謝辞】調査にあたっては、神田神社、神田神社の氏子町会の皆様に多大なご厚意とご協力を賜りました。文末ながら感謝申し上げます。

資料篇

資料篇として、平成二五年に神田神社への宮入を行った五二町会（大手・丸の内町会を除く）と二連合（錦連合・小川町連合）の祭礼実施状況の一覧を以下に掲載した。参考として、岩本町二丁目岩井会と蛎殻町東部町会の二町会のデータも掲載した。この二町会を入れると五四町会と二連合のデータである。本調査は、平成二六年一一月～平成二七年五月の期間で、神田神社の各町会の担当神職の協力のもと、各町会の関係者（町会長、副会長、青年部長等）に、以下の調査項目に沿ったインタビュー調査（内神田鎌倉町会と神田大和町会はＦＡＸによる回答）を実施した。調査項目の詳細は、昭和四三年の薗田稔の調査項目に沿う形で、①町会の世帯数。②町会で配布した神田祭のお札の数。③神酒所の有無と場所。④祭礼の象徴。神輿：Ｍ、山車：Ｄ、曳き太鼓：Ｈなどの数。大きさは判明分のみ、年代は昭和六〇年代～平成に新調した判明分のみを掲載。⑤町会の主な行事（祭礼行事）。蔵出し〈出〉・神輿展示〈展〉・御霊入れ〈御〉・挨拶廻り〈挨〉・神幸祭「受渡し」〈受〉・宵宮行事〈宵〉・町内渡御〈町〉・隣町廻り〈隣〉・連合渡御〈連〉・神輿宮入参拝〈宮〉・直会〈直〉・御霊返し〈返〉・蔵入れ〈入〉の有無。⑥役割動員：町会の祭礼の組織。祭典委員：〈委〉、祭典実行委員：〈実委〉、祭典委員会：〈委会〉、祭典実行委員会：〈実会〉、祭典委員長：〈委長〉、祭典実行委員長・祭礼実行委員長：〈実長〉、祭礼委員会〈礼会〉、祭礼委員長〈礼長〉、青年部〈青〉、婦人部〈婦〉。⑦一般動員：参加者数とその内訳。神輿同好会は「同好会」と表記。⑧行事経済：町会の祭礼費用。⑨行事変化：この一〇～一五年の変化。⑩祭りの評価：町会にとって神田祭はどのようなもの場か。⑪神社イメージ：神田神社は何の神様を祀る、どのような神社かを質問した。

【表1】

［神田中央連合］宮入実施：二町会・二連合。**神保町一丁目町会**：①町会員三八三世帯・七四三人。②一五〇～二〇〇枚程度。③有り［神保町三井ビルディング一F］。④M：大一［二尺三寸・H一五］・大一［二尺］・小一、H一。⑤〈御〉、〈宵〉、〈挨〉、〈受〉、〈町〉、〈宮〉、〈返〉、〈直〉。⑥〈委〉、〈委会〉、〈委長〉、総務統括、〈青〉、〈婦〉。⑦町会員四〇〇人、町会員外一五〇人。同好会一二～一三団体。女性：多い。⑧寄付（奉納金）。⑨企業の参加が増えた。⑩町会員の親睦の場。⑪氏神様、平将門／**神田猿楽町々会**：①町会員八〇世帯。②不明。③有り［明治大学内］。④M：大一［二尺］・中一［一尺八寸］・小一、H一。⑤〈出〉、〈御〉、〈宵〉、〈受〉、〈挨〉、〈町〉、〈宮〉、〈町〉、〈返〉、〈入〉、〈直〉。⑥〈委〉、〈委会〉、青少年部、〈婦〉。⑦大：日曜三五〇人、小：一〇人、H：三〇～四〇人。同好会一六～一七団体。⑧寄付（奉納金三八〇万円）。⑨平成二五年、宵宮を初めて実施。宵宮は金曜夜、会社員が半纏を着て一～一時間半神輿を担ぐ。二〇年前頃から神輿同好会の比率が高くなった。寄付は減少傾向。⑩地域の絆の再確認の場。町に活気が出る。⑪平将門、氏神様／**錦町二丁目町会（錦連合）**：①居住者一二～一三世帯・町会員六〇。②五〇～六〇枚。③有り［錦連合で一つの神酒所。ちょだプラットホーム］。④M：大一・小一、H一。⑤〈出〉、〈御〉、縁日、〈受〉、〈町〉［門付］、〈宵〉巡幸、［錦連合］〈宮〉、〈町〉、〈入〉、〈直〉［各町会ごとに実施］。⑥〈委〉、〈委長〉（錦連合で一人）。⑦六〇〇人［錦町二丁目町会と錦町三丁目町会の合計］。同好会五団体。⑧寄付（奉納金六〇〇万円弱）、町会費一〇〇万円（三町会合計）。⑨住民が昔の一〇分の一。二〇年前には既に連合を組んでいた。神酒所は町会ごとに作っていたが平成二五年に錦連合で一つに統合。ここ二〇年で担ぎ手が増加。⑩町会で一番大きなイベント（行事）。⑪大国主命、平将門、三神。氏神様。／**小川町北部一丁目町会（小川町連合）**：

①六〇世帯。居住者：約三八世帯。②約五〇枚。③有り［小川町連合の御仮屋］。町会別の神酒所…小川町北部一丁目町会：なし、小川町北部二丁目町会：有り［幸徳稲荷神社］、小川町北三町会：有り［三立商事一F］、小川町三丁目西町会：有り［三井住友銀行神保町ビル前］。④M：［小川町連合］大一［S六二］。小川町北部一丁目町会：MとHなし。⑤〈出〉、〈御〉、〈受〉、〈挨〉、〈町〉、［小川町連合］、〈宮〉、〈入〉、〈直〉。⑥〈委〉、〈委会〉〈小川町連合〉、〈委長〉〈当番町会の町会長〉。⑦小川町連合四町会：五〇〇人。揃いの半纏で担ぐ。友人・親戚が多い。会社員も参加。女性：多い。⑧小川町連合：寄付（奉納金三八〇～四〇〇万円）、町会費（祭礼費）。⑨バブル期の少し前から連合の神輿を作ろうという話が出た。幸徳稲荷神社が小川町北部四町の核にあるから連合するようになった。⑩どこの町会でも存在感があるような場。⑪神様は三人。

［中神田十三ケ町連合］ 宮入実施：一三町会。**内神田美土代町会：**①一三五世帯（住民登録）・人口二〇〇人。②二二〇～二三〇。③有り［和泉国際産業ビル一F］。④M：大一［二尺］・小一［一尺三寸］、H一。⑤〈出〉、〈御〉、〈受〉、〈挨〉、〈町〉、〈連〉［八町会］、〈宮〉、〈入〉、〈直〉。⑥〈礼長〉（町会長）、副〈礼長〉（副会長）、〈青〉、〈婦〉。⑦土曜一七三人［地元九五人、同好会七八人］。日曜二五六人［地元六〇人、同好会一九六人］。青年部：一〇人前後。会社員参加者数：四〇～五〇人⑧寄付（奉納金四〇〇万円）。不足分は大祭準備金で補充。神⑨やり方自体は変っていない。同好会の比率が増加。町内の子どもが少ないため、子ども神輿は飾るのみ。⑩大変だと言いながら、それを楽しむもの。祭りがないと寂しい。⑪地元の氏神／**司一町会：**①一五一世帯（住民登録）、町会員六四世帯。②二一〇枚。③有り［三立社ビル一F・駐車場］。④M：大一［二尺一寸］・小一［一尺五寸］、H一。⑤〈出〉、〈御〉、〈受〉、〈挨〉、〈町〉、〈隣〉、〈連〉［八町会］、〈宮〉、〈入〉、〈直〉。⑥〈委〉、〈委会〉、〈委長〉。⑦土曜二三八人、日曜三二九人。町会五〇人、城南信用金庫一〇人、神田睦会約二〇人、小：四〇～五〇人。⑧寄付（奉納金四六〇万円）、繰越金約五一万円。⑨半纏の新調。寄付・参加者を維持。平成一九年に子ども神輿・山車を修復。寄付集めをオープン化。⑩町内の最大のイベント。⑪平将門様。神田の人間は成田山にはいかない。／**司町二丁目町会：**①二〇四世帯・三七六人［町会員一四〇～一五〇］。②二〇〇枚。③有り［神田児童公園］。④M：大一・小一、H一。⑤〈出〉、〈御〉、〈宵〉、〈受〉、〈挨〉、〈町〉、〈連〉［八町会］、〈宮〉、〈入〉、〈直〉。⑥〈委〉、〈委会〉。⑦土曜三五〇人、日曜六五〇人。青年部一四～一五人。同好会二〇～三〇団体。⑧寄付（奉納金四八三万円＋神酒所奉納金二七万六千円）、繰越金約二〇七万円、お祓い奉納金（門付）二二五万円。⑨お祭りそのものは変化なし。お金と人の問題が大変で以前に比べ厳しくなっている。⑩神田で生活している中での一番の華。⑪身近な神社／**内神田鎌倉町会：**①二一五世帯（区公表）、町会員一七八。②不明。③有り［内神田尾嶋公園］。④M：大一［二尺五寸］・小一、H一。⑤〈御〉、〈町〉、〈宵〉、〈受〉、〈隣〉、〈宮〉、〈直〉。⑥〈委〉、〈委会〉、〈青〉、〈婦〉。⑦町会員二〇〇人、町会員縁者二〇〇人、同好会二〇〇人。⑧寄付（奉納金八四七万円）、町会費八五万円。⑨町会員の高齢化、転出により男女ともに実行部隊の戦力低下を感じる。⑩江戸最古町としての伝統を伝える場、町会員の心が一つになる場。⑪大黒様、恵比寿様、将門様／**内神田旭町々会：**①九九世帯［町会員は二〇〇弱］②二〇〇枚弱。③有り［佐竹稲荷神社］。④M：大一・小一、H一。⑤〈出〉、〈御〉、〈受〉、〈挨〉、〈隣〉、〈町〉、〈連〉、〈宮〉、〈返〉、〈入〉。⑥〈委〉、〈委会〉、〈青〉、〈婦〉。⑦金曜夕方一〇〇人。土曜二五〇～三〇〇人。日曜四〇〇人。同好会三〇～四〇人。子ども神輿三〇人。⑧寄付（奉納金五〇〇万～六〇〇万）、町会費（積立金。）⑨以前に比べ、居住者の参加：三分の一。⑩町会員が一体化する場。⑪子どもの頃からの氏神。心休まる氏神様／**多町一丁目町会：**①五四世帯（住民登録）、居住者：三〇世帯、町会員一五〇。②一五〇枚。③有り［三島彩色補正店一F］。④M：大一・小一、H一。⑤〈出〉、〈展〉、〈宵〉、〈御〉、〈町〉、〈挨〉、〈受〉、〈町〉、〈連〉［八町会］、〈宮〉、〈入〉、〈直〉。⑥〈委〉〈委会〉、神輿

部［〈青〉］、給食部［〈婦〉］。⑦金曜五〇～六〇人、土曜約二〇〇人、日曜約二五〇人［約一五〇人が友人・知人］。城南信用金庫神田支店：約二〇人。女性八〇～一〇〇人。⑧寄付〈奉納金四〇二万円〉、繰越金一三五万円、門付のご祝儀など。⑨昭和四〇年頃から担ぎ手が一時減少したが、盛り返して現在に至っている。奉納金は二〇年前は七〇〇万円。⑩大変だが町会が一つにまとまれるもの。神田祭はブランド。⑪大黒様、少彦名命、平将門／**多町二丁目町会**：①町会員二二〇～二三〇世帯。②寄付を貰った方に配布。③有り［神城ビル一F］、御仮屋：有り［多町二丁目交差点］、④M：大一・小一、H一。⑤〈出〉、〈展〉、〈御〉、〈受〉、〈挨〉、〈町〉、〈連〉［八町会］、〈宮〉、〈入〉、〈直〉。⑥〈委〉、〈委会〉、〈委長〉［町会長］、〈実長〉［青年部長］。⑦土曜：大三五〇人［町内：元町内・親戚を含み一〇〇人、町外：二五〇人］、日曜：大八〇〇人。同好会一〇団体。会社員約五〇人。子ども一五〇人～二〇〇人、女性一割。⑧寄付〈奉納金六三〇万円〉、繰越金。⑨変化なし。住んでいる人は増加。土曜日の八町会合わせは一五年くらい前から開始。⑩人と人のつながりを深くする場。一番大事な行事。お祭りがあるから青年部、町会も固まれる。自慢できるお祭り。⑪将門公／**神田鍛冶三会町会**：①七七世帯〈住民登録〉・町会員二二〇人。②二二〇枚。③有り［KDX鍛冶ビル1F］。④M：大一［二尺三寸］・小一［一尺八寸］、H一。⑤〈出〉、〈御〉、〈挨〉、〈受〉、〈宵〉、〈町〉、〈連〉［八町会］、〈宮〉、〈入〉。⑥〈委〉、〈礼会〉、〈礼長〉［町会長］、〈青〉、〈婦〉。⑦役員三〇、町会員一二〇人、同好会三〇〇人［一〇団体以上］。三菱銀行三〇人［土曜］。⑧寄付〈奉納金四五〇万円〉。⑨担ぎ手が年を取った。若い人が出てこない。平成一九年頃から金曜日の女みこしを開始。⑩祭りによって町が密接になる。他町会との張り合いの場。⑪平将門／**淡路町一丁目町会**：①町会員五〇世帯・約一五〇人。②なし。③有り［西形氏染物屋一F］。④M：大一［一尺八寸］・小一、H一。⑤〈出〉、〈御〉、〈挨〉、〈受〉、〈宮〉、〈町〉、〈直〉、〈入〉。⑥〈委〉〈委長〉〈町会長〉、副〈委長〉〈副会長〉、〈実長〉〈青年部長〉、世話人［〈連〉］、青年部、婦人部。⑦日曜：一五〇人［町会員二〇人、同好会一三〇人］、女性少ない。ワテラスの学生一〇人。⑧寄付〈奉納金二九八万円〉。⑨ほとんど変化なし。以前は金曜、土曜も町内渡御を行ったが現在は日曜のみ。⑩二年に一回の最大の行事。⑪氏神様。平将門。／**淡路町二丁目町会**：①町会員一四〇世帯［事業所、新住民を含む］、②一四〇枚。③有り［ワテラス一F］。④M：大一・小一、H一。⑤〈出〉、〈展〉、〈御〉、〈挨〉、〈受〉、〈宮〉、〈町〉、〈入〉。⑥〈委〉、〈委会〉、〈委長〉。⑦四〇〇人。同好会二〇〇人弱。ワテラス在住の学生一〇人。⑧寄付〈奉納金三五〇万円前後〉。⑨一六～一七年前から淡路町の再開発が始まる。⑩町会にとっても、街のとっても義務である。大イベント。⑪大黒様、恵比寿様、平将門。親しみのある神社／**須田町一丁目南部町会**：①町会員一六三。②約二〇〇枚。③有り［中川金属ビル一F］。④M：大一・小一、H一［幅一m二〇、長さ一m八〇］。⑤〈出〉、〈御〉、〈宵〉、〈受〉、〈挨〉、〈町〉、〈宮〉、〈入〉。⑥〈委〉、〈委会〉、〈実長〉〈町会長〉。⑦土曜一二〇人、日曜三〇〇人［町内五〇人、同好会二五〇人・一七～一八団体］。⑧寄付〈奉納金五五〇～六〇〇万円〉。不足分は町会費一五〇万円。⑨寄付は年々減少。⑩みんなで参加できるもの。⑪未回答／**須田町中部町会**：①一六〇世帯［町会員一〇〇世帯、企業七〇］。②一五〇枚。③有り［駐車場］。④M：中一［H一五］・小一、H一、獅子頭一対、四神剣。⑤〈出〉、〈御〉、〈受〉、〈挨〉、〈町〉、〈宮〉、〈入〉、〈直〉。⑥〈委〉、〈委会〉、〈婦〉、女みこし担ぎ手募集係。⑦一般募集（女性のみ）。参加者一六九人。⑧寄付〈奉納金三五三万円〉。⑨元々、住んでいた人が減少し、マンションが多くできたこと。⑩昔からいる人のひとつの結束の象徴。⑪平将門、大黒様／**須田町北部町会**：①町会員一四〇［大半が企業］、住民五〇世帯。②一五〇枚。③有り［須田町北部会館一F］。④M：大一・小一、H一。⑤〈出〉、〈御〉、〈受〉、〈挨〉、〈宵〉、〈宮〉、〈町〉［門付］、〈入〉、〈直〉。⑥〈委〉、〈委会〉。⑦四〇〇人［住民の関係者二〇〇人、町内の企業社員二〇〇人］。企業：りそな銀行三〇人、新日鉄興和不動産二〇人、JR東日本ビルディング、JRステーションリテーリング、みずほ銀行

二〇〜三〇人。女性：多い。⑧寄付（奉納金四〇〇万円）。⑨一二年前、神酒所の場所が新しい町会会館の一階へ変化。最大で五〇〇人いた神輿の担ぎ手が減少。町内の銀行が減少。⑩神田祭は特別なもの。世代を超えてみんなで一緒に汗をかくことで一体感が増す。それは街の機能にとっても有益。⑪神田神社はステータス。

［外神田連合］宮入実施：一二町会。**外神田一丁目万世橋会：**①一三世帯。②未調査。③有り［JR秋葉原駅電気街口］。④M：大一、小一。⑤〈出〉、〈御〉、〈町〉、〈宮〉、〈連〉［おまつり広場］、〈入〉。⑥〈委〉、〈委会〉。⑦大：四〇〇人［町会一〇〇人、神輿同好会三〇〇人］／**神田旅籠町会：**①一五〜二〇世帯。②未回答。③有り［住友不動産秋葉原ビル一F］。④神輿：大一・小一、H一。⑤〈出〉、〈御〉、〈受〉、〈挨〉、〈宮〉、〈連〉［おまつり広場］、〈町〉、〈入〉。⑥〈委〉。⑦町内に担ぐ人がいない。町会員の友達の友達が参加。⑧寄付（奉納金二〇〇〜三〇〇万円）⑨昭和四〇年頃から、だんだんと町会員の友達を連れてくるように変化。深川や浅草の神輿の睦会が三〜四団体参加。奉納金の芳名板は板張りに紙を貼るのが大変な作業のため一〇年ぐらい前から廃止。⑩神田祭は伝統、お神輿はレクリエーション。⑪未回答／**宮本町会：**①町会員：一七〇世帯。②未配布③有り［アヤベビル一F］。④M：小一。⑤〈出〉、〈御〉、〈受〉、〈挨〉、〈町〉、〈宮〉、〈連〉［おまつり広場］、〈町〉、〈入〉、〈直〉。⑥〈委〉、〈青〉、〈婦〉。⑦小：子ども一〇〇人［町内二〇〜三〇人と昌平小学校］。大：二五〇人［亀有三丁目東町会一〇〇人、町内企業・印刷屋四〇人、町会員の親戚五〇人］。⑧寄付（奉納金一一〇〜一二〇万円）、町会費二〇〇〜二五〇万円、繰越金。合計四〇〇〜四五〇万円。⑨町内の高齢化。ただし、子どもの参加は増。平成二一年より大人神輿を亀有の町会から借りて宮入を開始。⑩町会を守っている氏神様のお祭り。氏神の近くに住んでいるという誇りがある。何があってもきちんとやろうと思っている。⑪大国主命、恵比寿様、将門。商売の神様／**神臺會：**①八〇世帯［登録世帯］。町会員五〇世帯［居住者二〇人］。②八〇〜九〇枚。③有り［中村鈑金工業一F］。④M：大一［一尺八寸］・小一、H一。⑤〈出〉、〈展〉、〈御〉、〈受〉、〈挨〉、〈町〉、神社神輿［四尺］〈宮〉、〈宮〉、〈連〉［おまつり広場］、〈町〉、〈入〉。⑥〈委〉、〈礼会〉、〈礼長〉（町会長）。⑦二五〇人。友人・親戚が参加。企業二〇〜三〇人。⑧寄付（奉納金三〇〇万円）、町会費一〇〇万円、繰越金四〇〇万円。⑨平成六年から中央通りの「おまつり広場」を開始。平成一一年に四尺の神社神輿を用意して天皇御即位一〇周年を記念して皇居前へ渡御。ここ一五年くらいで盛んになった。⑩生き甲斐。商売とは別なもの。⑪氏神。ずいぶん隆盛してきた／**神田同朋町会：**①一五〇世帯［町会員一〇〇世帯］。②一五〇枚。③有り［永井紙器印刷一F］。④M：大一［二尺三寸・H八］・中一［新調前の大人神輿］、H一。⑤〈出〉、〈御〉、〈町〉、〈受〉、〈挨〉、〈町〉、〈宮〉、〈隣〉、〈入〉、〈直〉。⑥〈委〉、〈委会〉、〈委長〉（町会長）、〈青〉、〈婦〉。⑦四〇〇人［町内一五〇人、外二五〇人］。町外：町会員の親戚、氏子外の他町会、同好会など。女性約一五〇人。子ども三〇人。⑧寄付（奉納金三〇〇万円）。⑨二〇年ぐらい前と担ぎ方が変化。コカコーラのCMに同朋町会の神田祭が出たのは二五年前。⑩神田祭はお祭りの象徴。三社祭や鳥越神社の祭りにも負けない権威がある。⑪氏子の象徴。今は商売繁盛の神様／**外神田三丁目金澤町会：**①町会員九〇世帯・一〇〇人。②一〇〇枚。③有り［長竹ビル一F］。④M：大一［二尺三寸］・小一［一尺］、H一。⑤〈出〉、〈御〉、〈町〉、親睦会、〈受〉、〈挨〉、〈町〉、〈隣〉、〈宮〉、〈連〉［おまつり広場］、〈入〉、〈直〉。⑥〈委〉、〈委会〉、〈委長〉（町会長）。⑦大：二五〇人［町内二〇人、町外二三〇人］。同好会二団体。女性：三分の一。⑧寄付（奉納金二五〇万円）。⑨お祭りをやる人が少なくなった。若い人も年寄りもいなくなった。ここ一〇年くらいで金曜日の神輿巡幸と、年に一回の企業との懇親会を開始。⑩お祭りだから地域社会のためにはなる。人がいないから、終わるまで大変。⑪商売、結婚の神様。地域を守ってくれる神様／**外神田三丁目末廣町会：**①町会員二四四世帯。②二五〇枚。③有り［木村末廣苑一F］。

④M：大一・小一、H一。⑤〈出〉、〈展〉、〈御〉、〈受〉、〈挨〉、〈町〉、〈宮〉、〈隣〉、〈連〉［おまつり広場］、〈町〉、〈入〉、〈直〉。⑥〈委〉、〈委会〉。⑦日曜：大：一〇〇人。同好会参加。女性：多い。⑧寄付（奉納金六一〇万四五〇〇円）、神輿奉納金一八八〇〇円。⑨ほとんど変化なし。昭和五二年の神田祭では食券と入浴券を配布。⑩戦後すぐの頃は他に楽しみがなく、団結力があって町会で盛り上がった。現在は町会役員の負担が大きく辛い面もある。⑪大己貴命、少彦名命、平将門／**外神田四丁目田代会**：①町会員二〇世帯（町内に通ってる世帯：三世帯）。②七〇枚。③有り［ドンキホーテ前の路上］。④M：大一・中一・小一、H一。⑤〈出〉、〈御〉、〈受〉、〈挨〉、〈町〉、〈宮〉、〈連〉［おまつり広場］、〈入〉、〈直〉。⑥〈委〉、〈委会〉、〈青〉、〈婦〉。⑦大二六〇人。町会員の親戚・友人が多い。同好会は四団体・五〇名が参加。⑧寄付（奉納金二四〇万円）。⑨奉納金はここ二〇年くらい集まりにくい。⑩神田の祭りで神輿を担ぐからやっている。この辺りの同窓会がお祭り。地域文化、地域の交流の場。⑪将門がいるとはいってはいけない。氏神／**外神田四丁目松富会**：①八〇世帯。②八〇枚。③有り［㈱マコトの隣の一F］。④M：大一・小一、H一。⑤〈出〉、〈御〉、〈受〉、〈挨〉、〈町〉、〈隣〉、〈宮〉、〈連〉［おまつり広場］、〈入〉、〈直〉。⑥〈委〉、〈委会〉、〈委長〉、〈町会長〉、〈青〉、〈婦〉。⑦日曜：大二五〇人［町内三〇～四〇人、町外二一〇～二二〇人］。町外：友達の友達が多い。女性多い。⑧寄付（奉納金二三〇万円）。⑨寄付が集まらなくなった。神田市場がなくなってから住んでいる人が少なくなった。⑩役員をやっている人は「また祭り」といった感覚。寄付を集めるのも大変。⑪商売繁盛の神様／**外神田五丁目栄町会**：①居住者三〇世帯・法人四〇。約一〇〇人。②八〇枚弱。③有り（ユーテックBAN東邦一F）。④M：大一・小一、H一。⑤〈出〉、〈御〉、ふれ合い広場、〈受〉、〈挨〉、〈町〉、〈宮〉、〈連〉［おまつり広場］、〈隣〉、〈町〉、〈入〉、〈直〉。⑥〈委〉、〈礼長〉、副〈礼長〉、〈婦〉、青少年部。⑦二三〇人。町内：約三〇人［男一〇人、女一〇人弱、企業二〇人］。同好会二〇〇人［七～八団体］。女性：町外三〇～四〇人。⑧寄付（奉納金約二八〇万円）⑨居住する三〇世帯からの寄付金が多い。祭りの運営に際して、無駄の排除を行い、分業化を進め、地元企業の取り込みを図っている。⑩お祭りは故郷帰りのような場所。⑪氏神。氏子と氏神の距離間は変っていない／**外神田五丁目元佐久町会**：①町会員五一世帯。②不明。③有り［沼田ビル一F］。④M：大一・小一、H一。⑤〈出〉、〈御〉、〈受〉、〈挨〉、〈宮〉、〈連〉［おまつり広場］、〈入〉、〈直〉。⑥〈委〉、〈委会〉。⑦約七〇人［町内二〇人未満、町外五〇人］。同好会参加。女性約一〇人。子ども一〇人未満。⑧寄付（奉納金一七五万円）。⑨純粋にここで生活している人、町会員でお祭りのお手伝いをしてくれる方が減少し、運営が大変。⑩町会最大のイベント。⑪商売の神様／**神田五軒町町会**：①三三〇世帯、六二二人。②四四〇枚。③有り［錬成公園町会防犯・防災倉庫］。④神輿：大一［一尺七寸］・中一［現在の子ども神輿］・小一、H一。⑤〈出〉、〈展〉、〈御〉、〈受〉、〈挨〉、〈町〉、神社神輿、〈宮〉、〈宮〉、〈連〉［おまつり広場］、〈隣〉、〈入〉、〈直〉。⑥〈委〉〈委会〉、〈委長〉、〈町会長〉、〈婦〉、〈青〉、子ども会。⑦大五〇〇人［青年部五〇人、親戚二五〇人、同好会二〇〇人］。子ども五〇人。女性多い。⑧寄付（奉納金約五〇〇万円）。⑨隆盛した。町としての勢いがついた。⑩神田っ子の心意気をぶつける場。⑪神田神社は氏神。

［神田駅東地区連合］宮入実施：六町会。**鍛冶町一丁目町会**：①五九世帯・一一〇人。居住二六世帯、町会員三〇〇。②なし。③有り［山梨中央銀行事務所ビル一F］。④M：大一［二尺三寸］・小一、H一。⑤〈出〉、〈御〉、宵宮、〈町〉、〈挨〉、〈受〉、〈町〉、〈連〉［日本橋］、〈宮〉、〈入〉、〈直〉。⑥〈委〉、祭典運営委員会。⑦町会員一〇〇、同好会二二〇、その他一三〇。金曜一〇〇人程度。土・日曜二五〇～三〇〇人。山梨中央銀行三〇人。小：約三〇人。⑧寄付（奉納金四五〇万円）。⑨特に変化なし。平成二一年から金曜の神輿渡御を実施。⑩町内で生まれ育った人たちにとっての絆。⑪大国主命（大黒様）、少彦名命（恵比寿様）、平将門命の三神。子どもの頃からの氏神／**鍛冶町二丁目町会**：①町会員三〇〇世帯［居住者六〇世帯］。②三〇〇～三五〇

枚。③有り［秋山ビル一F］。④神輿：大一・小一、H一、囃子屋台一［鼓鍛冶］。⑤〈出〉、〈展〉、〈御〉、〈町〉、〈受〉、〈挨〉、〈連〉［日本橋、神田駅周辺］、〈宮〉、〈入〉、〈直〉。⑥〈委〉、〈実長〉（町会長）。⑦五〇〇人［町会役員の知人が多い］。青年部二〇～三〇人（交通整理）。同好会四〇～五〇人。徳力本店一〇人、神田通信機二〇～三〇人。子ども二〇～三〇人。⑧寄付（奉納金約七六二万円）。⑨ここ一〇年～一五年で盛り上がってきた。食べ物と飲み物を充実。⑩町内の親睦として最たるもの。代々受け継がれていく伝統文化。⑪将門さん。江戸の総鎮守／**北乗物町会**：①居住者二三世帯、七〇人。②なし。③有り［旧今川中学校、紺屋町南町会と合同］。④D：獅子頭太鼓山車一。⑤〈出〉、〈町〉、〈受〉、〈町〉、〈連〉［日本橋］、〈宮〉、〈町〉、〈入〉。⑥〈委〉。⑦D：約五〇人［子ども・大人］。⑧寄付（奉納金）、町会費。支出二〇〇万円。⑨紺屋町南町会と合同で行うようになった。合同で行うようになって非常に活性化した。宮入は一〇年前頃から開始。⑩地域の活性化になる。⑪商売繁盛の神様／**紺屋町南町会**：①三〇世帯（区登録）、居住者一〇世帯・町会員六〇。②八〇枚。③有り［旧今川中学校、北乗物町会と合同］。④M：大一［二尺三寸、H一一、飯田昭次郎氏作］。⑤〈御〉、〈町〉、〈受〉、〈町〉、〈連〉［日本橋］、〈連〉、〈宮〉、〈町〉、〈直〉。〈出〉、〈入〉。⑥〈委〉。⑦五〇人［町内少数、明治大学学生、知人、担ぎたい人］。⑧町会費七〇万円、寄付（奉納金一五万円）。⑨平成一一年五月に神輿（段ボール製）を自主制作。神輿製作後、神酒所を設置。平成一五年に最初の宮入を実施。平成一九年から北乗物町と合同の神田祭を実施し、祭りが賑やかになった。合同の神酒所は旧今川中学校に設置。平成二五年に一〇年振りに宮入。⑩地域の「団結の象徴」。神輿は町会を一つにするシンボル。⑪大黒様、恵比寿様、将門様／**富山町町会**：①七〇世帯（区登録）、町会員一三世帯。②五〇枚。③有り［神田通信工業一階］。④M：中一（S三〇）・小一、H一。⑤〈出〉、〈展〉、〈御〉、〈受〉、〈町〉、〈宮〉、〈入〉。⑥〈委〉、〈委会〉、青壮年部、〈婦〉。⑦土曜一五〇人［町内企業五〇人、同好会九〇人、紺屋町北部町会約一〇人］。⑧寄付（奉納金一五〇万円）。⑨お祭りに対する意識が変化。⑩地域の守り神として地域を活性化するためにはお祭りが必要。⑪大黒様。氏神様／**須田町二丁目町会**：①四一四世帯・五七六人（区登録）、町会員一五〇。②未回答。③有り［柳森神社前］。④M：大一［H二五］・小一、H一、囃子屋台一［柳囃子：町会文化部］。⑤〈御〉、〈宵〉、〈町〉、〈受〉、〈挨〉、柳森神社〈宮〉、柳森神社例大祭参列、〈返〉、〈宮〉、〈直〉。⑥〈委〉。⑦金曜一〇〇人、土曜二〇〇人、日曜六〇〇～七〇〇人。神輿同好会一五〇人。向井建設四〇～五〇人。⑧寄付（奉納金五〇四万円）、町会費［大祭費］二四〇万円。⑨一番大きく変わったのが二〇数年前から金曜日のお祭りをやるようになった。⑩地域活性化にはつながる。それぞれ半纏が違うので自分の町会への愛着が湧く。⑪江戸の氏神様。

［岩本町・東神田地区連合］宮入実施：七町会、（参考）岩本町二丁目岩井会。**岩本町三丁目町会**：①町会員一八〇［町会役員五〇世帯］。②五〇〇枚。③有り［山崎製パン本社ビル一F］。④M：大一［二尺五寸］・中一・小一。H一。⑤〈出〉、〈展〉、〈御〉、〈受〉、〈挨〉、〈町〉、柳森神社〈宮〉、〈宮〉、〈連〉［おまつり広場］、〈返〉、〈直〉、〈入〉。⑥〈委〉、〈委長〉、〈実長〉、〈婦〉、〈青〉。⑦元町内二〇～三〇人、山崎製パン三〇〇人［土・日］、本間組二〇人、田島ルーフィング二〇人、貝印一〇人、インターネット応募三〇～四〇人、和泉小学校教員。同好会としての参加なし。女性多い。⑧寄付（奉納金七〇〇万円を超える）。⑨大きな変化なし。約二〇年前、金曜に宵宮を実施。宵宮は町内の平成通りに、東神田町会、東神田豊島町会、東紺町会、大和町会などの神輿と連合渡御。しかし、担ぎ手が少なくなり廃止。⑩町会の付き合いも神田神社、神田祭があるから成立。⑪平将門、大黒様、恵比寿様。神田神社そのものが持っているエネルギーが大きい／**神田松枝町会**：①二二〇世帯［昔からの住人七〇世帯、マンションの住民一五〇世帯］、町会員一五〇。②二二〇枚。③有り［ハーブ神田ビル一F・駐車場］。御仮屋（山車小屋）：神酒所の隣。④M：大一［二尺一寸～二寸］・小一、D：「羽衣」山車一。

⑤〈出〉、〈御〉、〈宵〉、〈町〉、〈挨〉、〈受〉、〈連〉［岩一・東紺・松枝・大和］、〈宮〉［M・D］、〈入〉、〈直〉。⑥〈委〉、〈委長〉、〈婦〉、〈青〉。⑦大一二〇人。同好会約一五人。D：子ども七〇人［お母さんも一緒に参加］。M・D合計二二〇～二三〇人。⑧寄付（奉納金四三〇万円）。⑨祭りの内容は変化なし。お祭りに参加する人は減らない。子どもの参加者（マンションの知人）増加。山車の車輪を直してから昭和五五年頃、宮入を開始。⑩山車は松枝町会の誇り。この祭りを継承したい。お祭りをすると防災や地域の絆につながる。⑪地域の氏神様／**岩本町二丁目岩井会：**①一八〇世帯、町会員二〇～三〇世帯［町会活動に参加している世帯一〇世帯］。②不明。③有り［岩本町二丁目児童遊園］。④M：中一、D：「桃太郎」山車一。⑤〈出〉、〈展〉［M・D］、〈御〉、〈挨〉、〈受〉、宮入迎え、〈直〉、〈入〉。⑥〈委〉、〈委長〉（町会長）、〈実長〉（町会副会長）、〈青〉（二人）。⑦二五人［土曜一五～一六人、日曜一五～一六人］。町会長の会社員五～六人。セブンイレブン：店長以下一二～一三人。⑧町会費（約一〇〇万円）。従来は寄付（奉納金）。⑨平成二五年に二〇年振りに神酒所を作り、神輿を組んだ。⑩地域の人たちとつながりを深める場。⑪平将門／**神田大和町会：**①昔からの住民六〇世帯・約一五〇人。②約三〇〇枚。③有り［ほほえみプラザ一F］。④M：大一［二尺一寸］、小一。H［山車人形「天鈿女命」］一。⑤〈出〉、〈御〉、〈挨〉、〈受〉、〈宵〉、〈町〉、〈連〉［岩一・東紺・松枝・大和］、〈宮〉、〈返〉、〈入〉。⑥〈委〉、〈礼長〉（町会長）、〈実長〉（青年部長）。⑦町会員約一五〇人、親戚・友達一〇〇人、同好会一三〇人。⑧寄付（奉納金三五〇～四〇〇万円）。⑨昔からの町会員が減り、祭礼を一町会で運営するのが困難。⑩町会員、知り合いが一同に集りコミュニケーションが取れる。⑪一の宮に大己貴命、二の宮に少彦名命、三の宮に平将門命。住民のすべての心の支え／**神田東紺町会：**①町会員二〇世帯・四〇～五〇人［昔からの住民］。②一〇〇枚前後。③有り［金山神社］。④M：大一［二尺］・小一［一尺二寸］、H一。⑤〈出〉、〈展〉、〈御〉、〈宵〉、〈挨〉、〈受〉、〈町〉、〈連〉［岩一・東紺・松枝・大和］、〈宮〉、〈入〉、〈直〉。⑥〈委〉、〈委長〉、〈実長〉、〈婦〉、〈青〉。⑦土曜一五〇～二〇〇人。日曜三〇〇人［町内二〇人、同好会五〇人。大半が町内会員の同級生、職場の仲間］。同好会二～三団体。⑧寄付（奉納金三〇〇万円）、繰越金一五〇万円。⑨昔からの住人が減り、町内の門付は年々減少。三〇年前に宮入を開始。宮入の実施後、参加者は増加。⑩町会にとって最大のイベント。お祭りがあるから町会がまとまっている。⑪平将門。商売繁盛／**岩本町一丁目町会：**①町会員約一二〇世帯［マンションを含むと五〇〇世帯］。②二五〇枚。③有り［山崎金属工業ビル一F］。④M：大一［二尺三寸］・小一［一尺八寸］、H一。⑤〈出〉、〈展〉、〈御〉、門付、〈宵〉、〈町〉、〈受〉、〈挨〉、〈連〉［岩一・東紺・松枝・大和］、〈宮〉、〈連〉［おまつり広場］、〈返〉、〈入〉、〈直〉。⑥〈委〉、〈実会〉、〈青〉、〈婦〉。⑦金曜：町内約五〇人、町会外約一〇人、同好会約五人。土曜：町内約四〇人、町会外約二〇人、同好会約二〇人。日曜：町内約五〇人、町会外約八〇人、同好会約七〇人。⑧寄付（奉納金約三〇〇万円）。⑨神輿・曳き太鼓を祭礼前に町内に展示。金曜午後に町内へ神輿行列、金曜夕刻に法人対象の神輿渡御。土曜の近隣町会との連合渡御の開始。日曜終了後の「打ち上げ会」の簡素化。平成一五年に神輿を載せる台車を作る。⑩コミュニティの再確認の場。お祭りは町会の最後の拠り所。⑪大己貴命、小彦名命、平将門命。氏神様／**東神田町会：**①三五〇～三六〇世帯［H二七：五五四世帯］。②三三〇枚［H二七：五五四枚＋α］。③有り［都立一橋高校］。④M：大一［二尺七寸］・中一［一尺三寸］、H一、獅子頭一対。⑤〈出〉、〈御〉、〈町〉、前夜祭、お子様イベント、〈挨〉、〈受〉、〈宮〉、〈直〉、〈返〉、〈入〉。⑥〈委〉、〈実委〉。⑦土曜五〇人、日曜三九六人。⑧寄付（三九〇万円）。⑨ここ五～六年で町内構成が変化し、マンションの住民が増加。⑩お祭りを行うことによって町内の活性化、伝統の継承がなされる。一大イベント。⑪平将門公、明神様は心の拠り所。善意の象徴／**東神田豊島町会：**①居住者一二〇～一三〇人［マンションを含むと四〇〇～四五〇人］、町会員一二四。②二〇〇～二五〇枚。③有り［龍角散ビル一F前］。④M：大一・小一、H一、

獅子頭一対。⑤〈出〉、〈展〉、〈御〉、前夜祭、〈挨〉、〈受〉、〈町〉、〈宮〉〈返〉、〈入〉、〈直〉。⑥〈委〉、〈委長〉、祭実行委員長〈青年部長〉、〈青〉、〈婦〉。⑦土曜：大一〇〇人［担ぎ手五〇～六〇人、町内の支える人四〇～五〇人］、小：子ども二〇～三〇人。日曜：三〇〇人［同好会二五〇人。町会関連三団体：三〇～四〇人］。⑧寄付（奉納金三三七万四千円）、町会費六〇万円。⑨祭りのやり方は一緒で変化はない。町内に銀行が多かった時代、奉納金は四二〇～四三〇万円になったこともあった。統廃合で移転後、その分が減少。⑩伝統であり、慣習。祭りによって町内がまとまる。⑪平将門ほか三神。神田神社は下町につながる神社。

［秋葉原東部地区連合］宮入実施：五町会。**神田佐久二平河町会：**①町会員一三〇世帯。②二〇〇枚。③有り［森羅紗店一階］。④M：大一［一尺三寸］・小一［一尺三寸］、H一［胴二尺三寸、台四尺～五尺五寸］。⑤〈出〉、〈御〉、〈挨〉、〈受〉、〈町〉、〈宵〉［〈連〉］、〈宮〉、〈返〉、〈直〉、〈入〉。⑥〈委〉、〈委会〉、〈礼長〉、副〈礼長〉、〈青〉、〈婦〉。⑦大：土日約五〇〇人（H一九年：土・二一九人、日・三〇七人）。アルバイト三人。同好会五団体。UFJ銀行八人、三協化成一三人、パセラ一人。子ども五二人。女性多い（宮入の際、大人神輿の前棒は全部女性）。⑧奉納金二九八万三千円＋町会積立予備金（祭礼準備金）。⑨大きな変化なし。土曜の佐久間学校通りに近隣町会の神輿が集合する「宵宮」は三〇年前から開始。宵宮は青年部長主体で青年部費で用意。⑩町会の皆さんに感謝の気持ちが残るのが祭り。町内巡幸が祭り。⑪平将門／**神田佐久間町三丁目町会：**①世帯数：四三一、人口：六九九［町会員三三〇］。②三三〇枚。③有り。④神輿：大一・小一。H一。⑤〈出〉、〈御〉、〈挨〉、〈受〉、〈町〉、〈宵〉［〈連〉］、〈宮〉、〈返〉、〈入〉、〈直〉。⑥〈委〉、〈委会〉、〈実長〉、〈副会長〉、〈青〉、〈婦〉。⑦日曜：大三〇〇人［町内一五〇人、同好会一〇団体・一五〇人］。⑧寄付（奉納金五三〇～五四〇万円）。⑨変化なし。住んでいる人が減少。会社の従業員が神輿を担がなくなっている。金銭的には増加。⑩町会にとってはなくてはならない行事。⑪平将門、商売の神様／**神田佐久間町四丁目町会：**①人口：二〇〇人（登録人口）。②不明。③有り［佐久間公園］。④M：大一・小一。H一。⑤〈出〉、〈御〉、〈挨〉、〈受〉、〈町〉、〈宮〉、〈返〉、〈入〉、〈直〉。⑥〈委〉、〈委会〉。⑦大：三〇～三二〇人［地元の関係一〇〇人、木場グループ一〇～一二〇人、北千住三丁目一〇〇人］。小：二〇～三〇人［町内会の友達、和泉小学校の子ども］。⑧寄付二〇〇万円弱、繰越金三〇〇万円。⑨お祭りに対して、今まではどちらかというと否定的。ヨソ（外部）の力で神輿を出すのは町内の祭りではないと考え、神輿の巡幸は行わず、神酒所に飾るのみの時期があった。その後、平成二五年に神輿巡幸を復活し、宮入を実施。⑩何ともいえない。かつての町会最大のイベントは旅行。⑪みんな氏子だと感じ、いい意味でプライドを持ってる／**東神田三丁目町会：**①四一九世帯、七〇六人［このうち町会員は半分強。マンション七棟中三棟が町会に加入］。②三〇〇枚。③有り［萩原ビル一F］。一〇年以上この場所。④M：大一［H一六］・小一、H一。⑤〈出〉、〈展〉、〈御〉、〈受〉、〈挨〉、〈町〉、縁日、〈宮〉、〈返〉、〈入〉、〈直〉。⑥〈委〉、〈委会〉、〈委長〉、〈町会長〉、〈実長〉、〈副会長〉、〈青〉、〈婦〉。⑦土曜：大一〇〇人、小・H五〇人。日曜：大三〇〇人。町内六〇～六五人［担ぎ手二〇～二五人、役員二〇人、婦人部二〇人］。氏子外の町会関係者が多い。同好会四〇人。⑧寄付（奉納金二六四万一千円）、町会費（祭礼準備金五〇万円）。三五〇万円の支出。⑨平成に入ってからマンション化。大人神輿はレンタルで借り、五回（一〇年くらい）、巡幸。平成二一年から平成二五年の間に大人神輿を新調。八～九年前から、町会長のマンション一Fに神輿展示。⑩若手の交流の場。⑪平将門、氏神様／**神田和泉町町会：**①二〇〇世帯、三〇〇人。②なし。③有り［小林ビル］、御仮屋：関口記念和泉会館一F。④神輿：大一・中一・小一。⑤〈出〉、〈展〉、〈御〉、〈受〉、〈挨〉、〈町〉、宵宮〈連〉、〈宮〉、〈返〉、〈入〉、〈直〉。⑥〈委〉、〈委長〉〈町会長〉、〈実委〉。⑦土曜：大神輿一八〇人［町内四〇～五〇人、町外一三〇～一四〇人］。町外は同

好会、ＹＫＫ・キリンビバレッジ・凸版印刷の社員。中・小神輿：子ども四〇人［里帰りの子ども、和泉小学校が参加］。女性約二〇人。⑧寄付〈奉納金約七〇〇万円〉、町会費五〇～六〇万円。⑨ここ二〇～三〇年で盛り上がってきた。担ぎ手の内容が変化し、和泉町に縁のある人が多い。⑩祭りをやるために町会がある。祭りがあるお蔭で町のまとまりができる。大きな祭りをやることが一つの絆。⑪三体のご神体。氏神様。

［日本橋一地区連合］宮入実施：一町会。**室町一丁目町会：**①町会員一七〇世帯［居住者一〇五世帯］。②約一七〇枚。③有り［三越一Ｆ］。④Ｍ：大一・小一、Ｄ：加茂能人形山車一。⑤神輿搬出、〈展〉［Ｍ・Ｄ］、〈御〉、〈町〉、〈受〉、〈宮〉、〈返〉、神輿搬入、〈直〉。⑥〈委〉、〈礼会〉、〈礼長〉〈町会長〉、〈実長〉〈青年部長〉、〈青〉、〈婦〉。⑦土曜：同好会一〇五人、六青会三三人、近隣町会七五人、企業二二六人、町会員一七四人、藤岡市二九八人。日曜：同好会［〈宮〉九二人、〈町〉一六二人］、六青会［〈宮〉一七人、〈町〉四八人］、近隣町会［〈宮〉四〇人、〈町〉七〇人］、企業［〈宮〉二二人、〈町〉一二一人］、町会員一九八人。⑧寄付〈奉納金〉、町会費、青年会費、弓張提灯の収益金、献灯料。⑨町会の人が祭りに積極的になってきた。お祭りをやるようになってから和も広がり、「橋渡し」の場。⑩町会の一番大きな行事で、みんなが仲良くなる一番の場。⑪将門様、大黒様。神田神社は庶民に開かれた神社。**［日本橋三地区連合］**宮入実施：二町会［Ｈ二七：三町会］。**蛎一共和会：**①七〇〇世帯〈住民登録〉、町会員：約二〇戸〈マンション以外〉。②一三〇枚。③有り［庵原ビル隣の駐車場］。④Ｍ：大一・小一、Ｈ一。⑤神輿搬出、〈御〉、〈町〉、〈挨〉、〈受〉、〈宮〉、〈連〉、〈直〉。⑥〈委〉、〈委会〉、〈青〉、女子部。⑦大：一五〇～一七〇人［宮入の時は少なく、日曜が多い］。町内マンション住民の参加多い。カルチャースクール受講生・関係者三〇名、近隣町会二〇名弱。女性多い。⑧寄付〈奉納金二六〇万〉。⑨平成二一年に宮入を開始、平成二五年も実施。⑩単なるイベントではなく、宮入で神社につながっている。⑪明神様はやっぱり平将門／**蛎殻町東部町会：**①七四六世帯・人口一三二三人〈区登録〉。町会員三二三世帯程度。②三〇〇枚。③有り［川本氏ビル１Ｆ］。④Ｍ：大一［Ｈ一二］・小一、Ｈ一。⑤神輿搬出、〈展〉、〈御〉、〈町〉、〈挨〉、〈受〉、〈連〉［八町会］、〈隣〉、〈返〉、神輿搬入、〈直〉。⑥〈委〉、〈委会〉、〈委長〉〈町会長〉。⑦土曜二〇〇人、日曜二〇〇人［町内五〇人弱、町外一五〇人］。同好会一〇団体。子ども：土曜一〇〇人［鯰の曳き物を曳く］・日曜一五〇人［町内は少ない］。⑦寄付〈奉納金四五〇万円〉、繰り越し金、門付祝儀。⑧小さい神輿のときは町内の関心が低かった。平成一二年に大神輿を新調してから参加者が増加。担ぎ手を外から頼むようになったが、地域のお祭りではなくなってきた。平成一二年に宮入を始め、平成一七年、平成二一年に宮入。⑩一年おきでは多すぎる。三年おきにした方がいい。⑪将門のイメージが強い／**人形町二丁目三之部町会：**①四一八世帯〈住民登録〉。②四二〇枚。③有り［米澤芳彦氏ビル一Ｆ］。④Ｍ：大一・小一、Ｈ一、獅子頭一対。⑤神輿搬出、〈御〉、〈町〉、〈受〉、〈挨〉、〈宮〉、〈連〉、神輿搬入、〈直〉。⑥〈委〉、〈委会〉、〈青〉、〈婦〉。⑦大二〇〇人［町内五〇人、町外一五〇人］。町外：同好会。⑧寄付〈奉納金三五八万円〉、町会費〈祭礼準備金〉ほか。支出総額三八八万円。⑨大きな変化なし。宮入は平成二五年に開始。⑩江戸っ子の楽しみ。子どもたちも楽しめる。⑪神田祭の神社。**［日本橋四地区連合］**宮入実施：二町会。**東日本橋三丁目橘町会：**①町会員九四〇世帯［マンション一〇棟で五五〇戸］。②一七〇枚。③有り［戸田商店一Ｆ］、御仮屋［橘モーター商会一Ｆ］。④Ｍ：大一・小一、Ｈ一。⑤〈出〉、〈御〉、〈宵〉、〈町〉、〈受〉、〈隣〉［Ｈ二五のみ］、〈宮〉、〈返〉、〈入〉、〈直〉。⑥〈委〉、〈委会〉、〈委長〉〈町会長〉。⑦土曜：町内五〇人、担ぎ手一五〇人。マンションの人や会社員が参加。日曜：町内五〇人、担ぎ手二〇〇人。同好会は団体の参加なし。友人・知人が多い。女性約二〇％。子ども：一〇〇人前後。⑧寄付〈奉納金二五〇～二六〇万円〉、祭礼積立金〈町会費〉。計四七〇～四八〇万円。⑨ここ一〇年くらいでマンションの街に変化。お祭りの時に、お店のシャッターが閉まっているところが多く、ギャラリーも少

ないなど、お祭りの雰囲気が変化。宮入は五〜六回実施。⑩町会としてはなくてはならない催し。老若男女が集まって協力する場所、親睦の場は他にない。マンションの人たちが参加するきっかけにもなる。⑪楽しめる神社。資料館もあり、面白い行事もあり親しめる／**東日本橋二丁目町会：**①一一〇〇世帯、二三〇〇人。②五〇〇枚。③有り［薬研堀不動院］。④M：大一・小一、H一。⑤〈出〉、〈御〉、〈挨〉、〈受〉、〈連〉、チビッコ縁日、〈町〉、〈宮〉、〈返〉、〈入〉、〈直〉。⑥〈委〉、〈委会〉、〈委長〉（町会長）。⑦大人神輿六〇人［町内四〇人、町外二〇人］。町外：東京理科大学学生。⑧寄付（奉納金四〇〇万円）、町会費一〇〇万円。⑨一二年前に舟渡御を実施。⑩地域の連携がお祭り。⑪平将門。**［日本橋五地区連合］**宮入実施：二町会。**浜町一丁目町会：**①九七六世帯［町会に大半加入］。②二五〇〜三〇〇枚。③有り［浜町コミュニティルーム］。④M：大一・小一、H一。⑤神輿搬出、〈展〉、〈御〉、〈町〉、〈挨〉、〈受〉、〈町〉、〈宮〉、〈連〉［明治座前］、〈直〉。⑥〈委〉、〈委会〉、〈委長〉（町会長）、祭担当責任者（副会長）、浜一会［〈青〉・〈婦〉合同］。⑦大：二五〇人［町内八〇人、町外一七〇人］。宮入八五人。同好会七団体。子ども五〇人。女性：二割。⑧寄付（奉納金二〇〇万円）、町会負担金一〇〇万円。⑨地元の人が減少し、マンションの住民が増加。平成二五年から宮入を開始。⑩町会が一つにまとまる二年に一度の機会。お祭りは他の行事と別もの。⑪将門のイメージが強い。氏神様／**浜町三丁目東部町会：**①九一〇世帯〈区登録H二七一月〉。町会員約八一九世帯。②二五〇枚。③有り［大山高志氏宅・車庫］。④M：大一・小一、H一。⑤神輿搬出、〈御〉、〈挨〉、〈町〉、〈受〉、〈宮〉、〈連〉［明治座前］、神輿搬入、〈直〉。⑥〈委〉、〈委会〉、〈委長〉（町会長）。⑦大：七〇〜八〇人［町内四〇〜五〇人、町外三〇人］。同好会三〜四団体。築地町会、菊一町会（亀戸天神）から参加。子ども八〇〜一〇〇人。女性約二〇人。⑧寄付（奉納金二五〇万円）。⑨参加者は変らない。寄付金は減少（最盛期四〇〇万円〜五〇〇万円）。マンションの住民が増加。宮入は平成二五年から開始。⑩氏子の中で一番端の町会の割には神田祭をがんばって実施。⑪今は将門のイメージは強くない。